

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

基準 8 - 1 - : 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる）が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校は 2003 年度に総合教育棟の親営、研究棟の改修が完成した。施設の概要を資料 8 - 1 - - 1 に示す。

資料 8 - 1 - - 2 に学習教育目標と教育研究設備との関係を示す。本校では全ての学習教育目標が達成できるように施設を整備している。

講義室は、あらゆる教育目標を達成するための施設として、一定以上の広さを有し、かつ空調や機器等の設備が充実しているべきである。講義室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8 - 1 - - 3 に示す。第 1、第 2 講義室、階段教室等の大型教室を除くいずれの講義室においても、学生一人当たり 2.0m² 程度の面積が確保されている。空調・換気設備、映写用スクリーン、LAN 情報コンセントが完備されている。

基礎科目系及び各学科に属する実験室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8 - 1 - - 4 ~ 9 に示す。いずれの実験室も目的の実験を行うに十分な面積が確保され各種設備も充実している。

演習室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8 - 1 - - 10 に示す。いずれの演習室も、学生一人当たり 3.0m² 程度の面積が確保されている。空調・換気設備、各種専用機器、LAN 情報コンセントが完備されている。

ゼミ室の広さ、場所、設備等の一覧を資料 8 - 1 - - 11 に示す。いずれのゼミ室も学生一人当たり 2.0m² 以上の面積が確保されている。空調・換気設備、LAN 情報コンセント、流し台、机等も揃っている。

図書館の概要を資料 8 - 1 - - 12 に示す。空調・換気設備、蔵書検索用パソコンが完備されている。利用状況も良好である（資料 8 - 1 - - 13 ~ 14）。図書館の管理・運営は、図書館運営部会の主導により行われている。

本校の基幹情報施設であるネットワーク情報センターの概要を資料 8 - 1 - - 15 に示す。学生一人当たり 2.3m² 程度の面積が確保され、広く学生に利用されている（資料 8 - 1 - - 16）。空調・換気設備が備えられ、各種アプリケーションを導入したパソコンも完備されている。システムの管理・運営はネットワーク情報センター運営部会の主導により行われている。

体育施設の広さ、利用形態、設備を資料 8 - 1 - - 17 に示す。いずれの体育施設も十分な広さを有している。各体育施設には器具庫、トイレ等が設置されている。

オープンラボの広さ、場所、設備等を資料 8 - 1 - - 18 に示す。いずれも十分な面積が確保され実験台や LAN コンセントなども完備されている。

上記各種施設には管理者が決められ日常的な管理が行われている。安全管理のために安全衛生委員会が設置され（資料 8 - 1 - - 19 ~ 20）、安全衛生に係る調査や改善の検討がなされている（資料 8 - 1 - - 21）。木更津工業高等専門学校教職員安全衛生管理規則（資料 8 - 1 - - 22）を定め

全学生・職員に通達するとともに、実験実習安全必携（資料 8 - 1 - - 23）を配付し、事故時の救急措置法、危険物等の取扱方法などを周知している。

本校施設の概要

施設の概要 **FACILITIES**

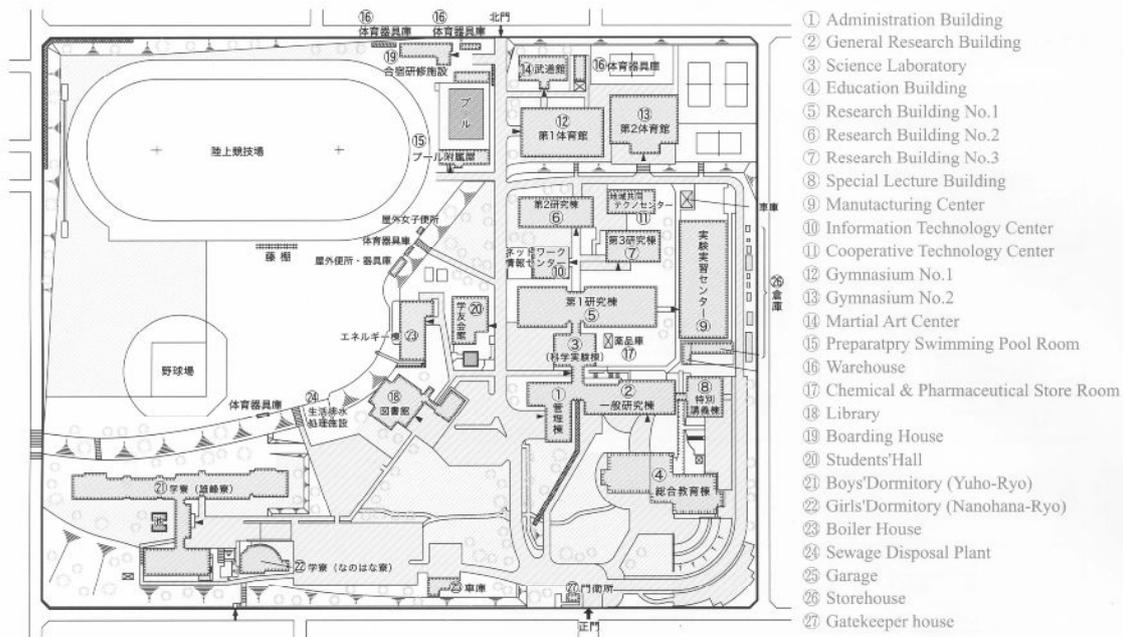
敷地 **Land**

校地 College Area	職員宿舎 Staff Housing		総面積 Land Area
清見台キャンパス	祇園	高砂	
100,054 m ²	1,736 m ²	2,759 m ²	104,549 m ²

建物 **Buildings**

区分	構造	面積	設置年度	区分	構造	面積	設置年度
① 管理棟	R・2	4,090 m ²	S42	⑮ プール・プール附属屋	R・1	258 m ²	H6
② 一般研究棟	R・2			⑯ 体育器具庫他	R・1	258 m ²	S45~S46
③ 科学実験棟	R・2			⑰ 化学薬品庫	R・1	30 m ²	S51
④ 総合教育棟	R・4	3,522 m ²	H15	⑱ 図書館	R・3	1,771 m ²	S51
⑤ 第一研究棟	R・4	4,091 m ²	S43	⑲ 合宿研修施設	S・1	205 m ²	S53・54
⑥ 第二研究棟	R・4	2,200 m ²	S59	⑳ 学友会館	R・2	702 m ²	S56
⑦ 第三研究棟	R・5	2,183 m ²	H4	㉑ 学寮(雄峰寮)	R・4	6,233 m ²	S42・H12
⑧ 特別講義棟	R・2	717 m ²	S63	㉒ 学寮(なのはな寮)	R・4	734 m ²	H12
⑨ 実験実習センター	S・1	1,555 m ²	S43	㉓ エネルギー棟	R・1	398 m ²	S42
⑩ ネットワーク情報センター	R・1	302 m ²	S50	㉔ 生活排水処理施設	R・1	30 m ²	S54
⑪ 地域共同テクノセンター	R・2	414 m ²	H12	㉕ 車庫	S・1	112 m ²	S44
⑫ 第1体育館	S・1	1,153 m ²	S43	㉖ 倉庫他	S・1	351 m ²	S45~S60
⑬ 第2体育館	S・R・1	880 m ²	S58	㉗ 門衛所	S・1	24 m ²	H15
⑭ 武道場	S・1	311 m ²	S44	計		32,524 m ²	

建物配置図 **MAP OF THE CAMPUS**



学習教育目標と対応する施設

学習・教育目標		対応する施設
(A)人間形成 健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。	(1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。	講義室, 図書館, 体育施設, 学友会館, 合宿研修施設, コミュニティールーム
	(2) 深く社会について理解し、広い視野が持てるよう豊かな教養を身につける	講義室, 図書館, ネットワーク情報センター
	(3) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, オープンラボ, 実験実習センター
(B)科学技術の修得と応用 自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、積極的に活用しようとする技術者。	(1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, ネットワーク情報センター, ゼミ室
	(2) 専攻する学科の専門分野の知識と能力を身につける。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, ネットワーク情報センター, ゼミ室, 実験実習センター
	(3) 実験実習を通してものづくりに必要な力を身につける。	実験室, 演習室, 地域共同テクノセンター, ネットワーク情報センター, ものづくり室, オープンラボ, 実験実習センター
(C)コミュニケーション能力 高度情報化社会に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。	(1) 日本語の記述能力を身につける。	講義室, 図書館
	(2) 英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。	講義室, 演習室, ネットワーク情報センター, ゼミ室
	(3) 情報技術を使いこなし、発表討論ができる能力を身につける。	講義室, 演習室, ネットワーク情報センター, ゼミ室
(D)創造力 自ら工夫して新しいものを造りだす問題発見・解決型の技術者。	(1) 一般特別研究や卒業研究などを通して修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し問題を発見し解決する能力を身につける。	講義室, 実験室, 演習室, 図書館, ゼミ室, オープンラボ, 地域共同テクノセンター, ネットワーク情報センター, ものづくり室, 実験実習センター

講義室の概要

名称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
講義室(生産システム工学1年用)	84	40	2.1	総合教育棟 2~4F	スクリーン, LANコンセント, 空調・換気設備
第1講義室	201	200	1.0	総合教育棟 1F	スクリーン, LANコンセント, スピーカー, プロジェクター, ビデオ, 空調・換気設備
第2講義室	129	100	1.3	特別講義棟 2F	スクリーン, プロジェクター, ビデオ, 空調・換気設備
第3講義室	80	50	1.6	特別講義棟 1F	大型テレビ, スクリーン, 映写機, ビデオ, LANコンセント, 空調・換気設備
第4講義室	84	40	2.1	総合教育棟 3F	スクリーン, LANコンセント, 空調・換気設備
第5講義室	64	40	1.6	一般研究棟 1F	スクリーン, 空調・換気設備
マルチメディア 講義室A	84	40	2.1	総合教育棟 2F	電源コンセントつき机, スクリーン, 空調・換気設備, LANコンセント
マルチメディア 講義室B	84	40	2.1	総合教育棟 2F	電源コンセントつき机, スクリーン, 空調・換気設備, LANコンセント
特別教室 ¹	129	48	2.7	特別講義棟 1F	空調・換気設備, LAN接続パソコン, 音声・映像設備
階段教室	140	140	1.0	科学実験棟 1F	スクリーン, スピーカー, プロジェクター, ビデオ, LANコンセント, 空調・換気設備
視聴覚室 ²	80	40	2.0	特別講義棟 1F	空調・換気設備, LANコンセント 大型ディスプレイ, パソコン, 教材提示装置
SCS講義室 ³	98	50	2.0	特別講義棟 2F	空調・換気設備, LANコンセント, SCS(衛星回線設備, 大画面プロジェクタ等)
専攻科講義室 A	74	40	1.9	第3研究棟 1F	スクリーン, 空調・換気設備, LANコンセント
専攻科講義室 B	75	40	1.9	第3研究棟 1F	スクリーン, 空調・換気設備, LANコンセント

- 1 マルチメディアを用いた授業を想定。主に語学教育に使用
- 2 視聴覚教材を用いる授業を想定
- 3 通信衛星回線を通じて、大学や高専との間で遠隔授業や講演会が行える

基礎科目系実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
化学実験室	104	40	2.6	科学実験棟 1F	純水製造装置, 恒温真空乾燥炉, 電子天秤 電気炉, ドラフトチャンバー
物理第1実験室	104	20	5.2	科学実験棟 2F	施光計, 線膨張率測定装置, 光度計, 剛性率測定装置, ヤング率測定装置
物理第2実験室	104	20	5.2	科学実験棟 2F	紫外分光光度計, GM計数管, ガンマ線スペクトル測定装置, 霧箱, 電気炉
基礎実験室	36	5	7.2	科学実験棟 2F	マルチ分光測光システム, UVレーザー装置, 蛍光画像解析装置, 高速ゲートCCD

機械工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
流体実験室	134	14	9.6	第1研究棟 1F	二次元風洞装置, PIV解析システム, 熱線計測システム, 水路型水槽
機械材料 実験室	85	14	6.1	第1研究棟 1F	インストロン式万能試験機, 疲労試験機, 硬さ試験機, シャルピー衝撃試験
精密測定 実験室	64	14	4.6	第1研究棟 3F	レーザ干渉計, オートコロメータ, 表面粗さ計, 万能測長器, パソコン
MEシステム工学 専攻実験室	43	5	8.6	第1研究棟 3F	運動機構解析システム, 4足歩行ロボット装置, フレキシブルアーム実験装置, パソコン
自動制御 実験室	64	14	4.6	第1研究棟 3F	倒立振り子実験装置, 多関節ロボット実験装置, パソコン
自動化第1 実験室	64	9	7.1	第1研究棟 3F	FA実験装置, XYテーブル実験装置, エアハンド実験装置, パソコン
自動化第2 実験室	21	5	4.2	第1研究棟 3F	卓上旋盤, パソコン
機械要素 実験室	51	10	5.1	実験実習 センター1F	FZG歯車試験機, IAE歯車試験機, プラスチック歯車試験機, 歯形試験機
内燃機関 実験室	95	14	6.8	実験実習 センター1F	内燃機関性能試験装置, 熱研式断熱熱量計, 引火点試験器, レッドウッド粘度計
機械工作 実験室	72	14	5.1	実験実習 センター1F	振動実験装置3台, FFT分析器2台, 動釣り合い試験機, ひずみ計測装置

電気電子工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
高電圧実験室	45	6	7.5	第1研究棟 1F	雷インパルス電圧発生装置, 雷インパルス用 基準クラス分圧器, カレントトランスセット
電力実験室	30	10	3.0	第1研究棟 1F	3相交流実験装置, ATP-EMTP電力輸送システムシミュレータ
コンピューター 工学実験室	64	25	2.6	第1研究棟 2F	多機能汎用画像解析システム, デジタルアナライザ, ビデオプリンタ
電子工学 実験室	112	20	5.6	第1研究棟 4F	FFTアナライザ, インピーダンスアナライザ, ネットワークアナライザ, 回路シミュレータ
電子材料 実験室	128	20	6.4	第1研究棟 4F	近接昇華装置, 蒸着装置, 光CVD装置, ドラフトチャンバー, マルチチャンネル分光器
電子計測 実験室	64	18	3.6	第1研究棟 4F	原子間力顕微鏡, 4K冷却超伝導実験装置, ダイシングソー, 超音波ワイヤーボンダー
ミリ波実験室	32	8	4.0	第1研究棟 4F	マルチターゲット高周波スパッタ装置, シングルターゲット高周波スパッタ装置
サブミリ波 実験室	32	8	4.0	第1研究棟 4F	電子ビーム露光装置, 金属顕微鏡, クリーンベンチ, ドラフトチャンバー
電子情報通信 実験室	64	18	3.6	第1研究棟 4F	マイクロ波実験装置, 高感度パワーメータ, ネットワーク実習システム
電子応用 実験室	64	24	2.7	第1研究棟 4F	自動制御モデルプラント, パソコン, オシロスコープ, デジタルアナライザ, 発振器
MEシステム工学 専攻実験室	74	8	9.3	第3研究棟 2F	B-Hループトレーサー, ガウスメータ, 電気炉, ホットスターラー, デシケータ
電気機器 第1実験室	137	19	7.2	実験実習 センター1F	インバータ実験, コンバータ実験システム 誘導電動機特性測定装置, サーボアナライザ
電気機器 第2実験室	35	4	8.8	実験実習 センター1F	100kHz電力測定装置, 電子負荷装置 高精度デジタルオシロスコープ

電子制御工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
自動化実験室	90	10	9.0	第2研究棟1F	振動実験装置, 定盤, 実験台
計測実験室	68	10	6.8	第2研究棟1F	4脚移動ロボット, マニピュレータ
計算機実習室 (1)(2)	120	20	6.0	第2研究棟2F	計測機器, パソコン, 実験台
DJシステム工学 専攻実験室	68	8	8.5	第2研究棟3F	計測機器, パソコン, 実験台
電子工学 第1実験室	60	10	6.0	第2研究棟3F	計測機器, パソコン, 実験台
電子工学 第2実験室	68	10	6.8	第2研究棟3F	計測機器, パソコン, 実験台
クリーンルーム	30	4	7.5	第2研究棟3F	真空蒸着器, クライドスタッド, 分光器
電子制御 第1実験室	135	40	3.4	第2研究棟4F	計測機器, 電気実験装置, 実験台
電子制御 第2実験室	68	20	3.4	第2研究棟4F	計測機器, パソコン, 実験台
制御工学 実験室	60	10	6.0	第2研究棟4F	計測機器, パソコン, モーションキャプチャ装置
情報工学 実験室	75	15	5.0	第2研究棟4F	基板加工機, ネットワークアナライザ
DJシステム 工学実験室	57	5	11.4	第3研究棟2F	パソコン, プリンタ, ノートパソコン, スキャナ, 指紋センサ

資料 8 - 1 - - 8

情報工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
DJシステム工学 専攻実験室	68	16	4.3	第2研究棟 3F	パソコン, プリンタ, 机
計測システム 実験室	48	5	9.6	第3研究棟 2F	パソコン, プリンタ, 信号メモリ装置, シンクロスコープ
DJシステム 工学実験室	57	5	11.4	第3研究棟 2F	パソコン, プリンタ, ノートパソコン, スキャナ, 指紋センサ
回路システム 実験室	39	10	3.9	第3研究棟 3F	パソコン, ワークステーション, プリンタ, FPGA開発環境
情報科学 実験室	54	10	5.4	第3研究棟 3F	パソコン, ノートパソコン, プリンタ
情報回路 実験室	97	50	1.9	第3研究棟 4F	パソコン, デジタルストレージオシロ, アナログオシロ, デジタルマルチメータ,
回路工作室	27	6	4.5	第3研究棟 4F	バンドソー, フライス盤, ボール盤, ハイトゲージ, 定盤
情報数理 実験室	39	11	3.5	第3研究棟 4F	パソコン, プリンタ, スキャナ
情報工学応用 実験室	36	10	3.6	第3研究棟 4F	パソコン, プリンタ, スキャナ, 熱電対実験環境
情報通信 実験室	51	11	4.6	第3研究棟 5F	パソコン, 組み立て分解用パソコン, ハブ, プリンタ, スキャナ
情報システム 実験室	46	11	4.2	第3研究棟 5F	パソコン, ワークステーション, プリンタ, スキャナ, MIDI楽器
総合情報 実験室	51	12	4.3	第3研究棟 5F	パソコン, プリンタ, 力覚提示ユニット, ステレオ カメラ付実体顕微鏡, 力計測センサアンプ
システム・ソフトウェア 実験室	39	10	3.9	第3研究棟 5F	パソコン, サーバ, スキャナ, プリンタ
情報基礎 実験室	54	11	4.9	第3研究棟 5F	パソコン, プリンタ, プリンタ&スキャナ

資料 8 - 1 - - 9

環境都市工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積(m ²)	場所	主な設備等
水理実験室	149	40	3.7	第1研究棟 1F	実験開水路, 実験管水路, 電磁流速計, トータルステーション, 供試魚飼育用水槽
測量リモセン 実験室	45	20	2.3	第1研究棟 1F	トータルステーション, プラニメーター, 測距儀, 製図用具
環境工学 実験室(A)	45	20	2.3	第1研究棟 2F	環境試験装置, 光学顕微鏡2台, 炭化炉
環境工学 実験室(B)	15	5	3.0	第1研究棟 2F	研究用パソコン
光弾性実験室	21	5	4.2	第1研究棟 2F	光弾性実験装置, パソコン
衛生工学 分析室	64	25	2.6	第1研究棟 2F	ドラフトチャンバー, 高圧蒸気滅菌器, UV インキュベーター, TOC計
精密実験室	21	5	4.2	第1研究棟 2F	クリーンベンチ, 極低温保冷库
衛生工学装置 実験室	64	25	2.6	第1研究棟 2F	ガスクロマトグラフ計, マッフル炉, 乾熱滅菌 器
環境構造 実験室	45	10	4.5	第2研究棟 1F	200kN疲労試験機, 動ひずみ測定装置, データロガーシステム
CC工学専攻 実験室	56	10	5.6	第3研究棟 2F	数値解析用パソコン, ワークステーション レーザープリンター
土質実験室	91	40	2.3	実験実習 センター1F	正・逆断層変位試験装置, 土質試験装置, 画像計測装置, 地盤簡易支持力測定装置
構造実験室	93	10	9.3	実験実習 センター1F	500kN耐圧試験機, 各種加工工具, 油圧サーボ型疲労試験機,
材料実験室	170	40	4.3	実験実習 センター1F	2000kN耐圧試験機, 50Lパン型ミキサー, 100L二軸強制ミキサー, 中性化促進装置
恒温恒湿室	23	5	4.6	実験実習 センター1F	供試体棚, 乾燥炉, 恒温恒湿装置, 空圧型引張クリープ試験機,

資料 8 - 1 - - 10

演習室の概要

名称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場所	設備等
CAD室	132	40	3.3	第1研究棟 2F	CADソフト登載パソコン, スクリーン, プリンタ, LANコンセント, 空調・換気設備
M科製図室	175	45	3.9	第1研究棟 3F	ドラフター, LANコンセント, 空調・換気設備
計算機演習室	122	45	2.7	第3研究棟 3F	パソコン, プリンタ, 映像配信装置, 書画カメラ, LANコンセント, 空調・換気設備

資料 8 - 1 - - 11

ゼミ室の概要

名称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	設 備 等
共通ゼミ室 A	45	15	3.0	一般研究棟 2F	空調・換気設備, 流し台, LAN
共通ゼミ室 B	30	15	2.0	第2研究棟 1F	空調・換気設備, 流し台, LAN
専攻科ゼミ室 A	30	8	3.8	第1研究棟 2F	空調・換気設備, 流し台, LAN
専攻科ゼミ室 B	34	12	2.8	第2研究棟 3F	パソコン, プリンター, 書棚, 流し台
専攻科ゼミ室 C	28	12	2.3	第3研究棟 1F	空調・換気設備, 流し台, LAN

資料 8 - 1 - - 12

図書室の概要

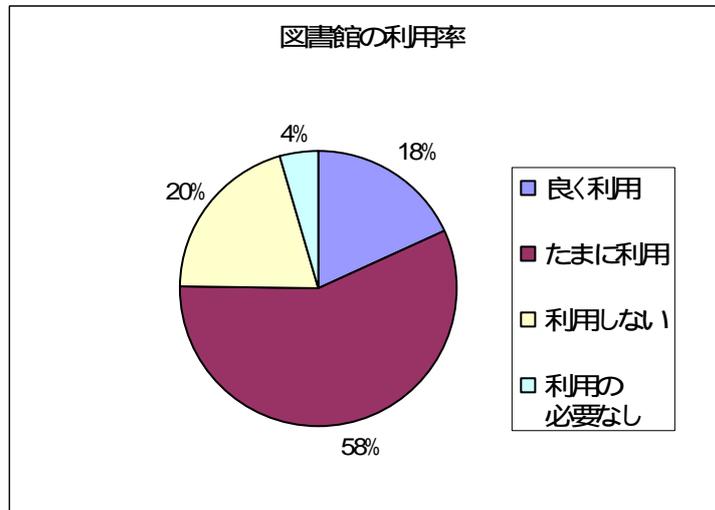
広 さ	延べ床面積 1771m ² (図書館の国立学校建物基準面積は 1,600m ²)
快適さ	空調・換気設備完備。パソコンコーナー, ビデオ室を設置。
使いやすさ	開館時間は, 平日 9:00~20:00 土曜日 12:00~17:00。 (長期休業期間中は 平日 9:00~17:00。) オンライン蔵書検索システムが稼働している。 2001年度より一般開放している。
備 考	高専 - 長岡技術科学大学電子ジャーナルコンソーシアムが利用できる。

資料 8 - 1 - - 13

ネットワーク情報センターの概要

広 さ	延べ床面積 302m ² (演習室の広さは135m ² 。学生一人当たり2.3m ² 程度確保。)
快適さ	空調・換気設備完備。
使いやすさ	開館時間は, 平日 9:00~17:00。 授業や行事等を除けば, 学生は自由に使用することができる。 パソコン系の雑誌等完備。
設 備	学生用パソコン49台, 教員用パソコン2台。 パソコンには情報系の授業に対応できる各種アプリケーションが導入されている。
備 考	2005年4月センター内の演習室用パソコンを全て一新した。

図書館利用アンケート結果



(出典 本校認証評価の HP

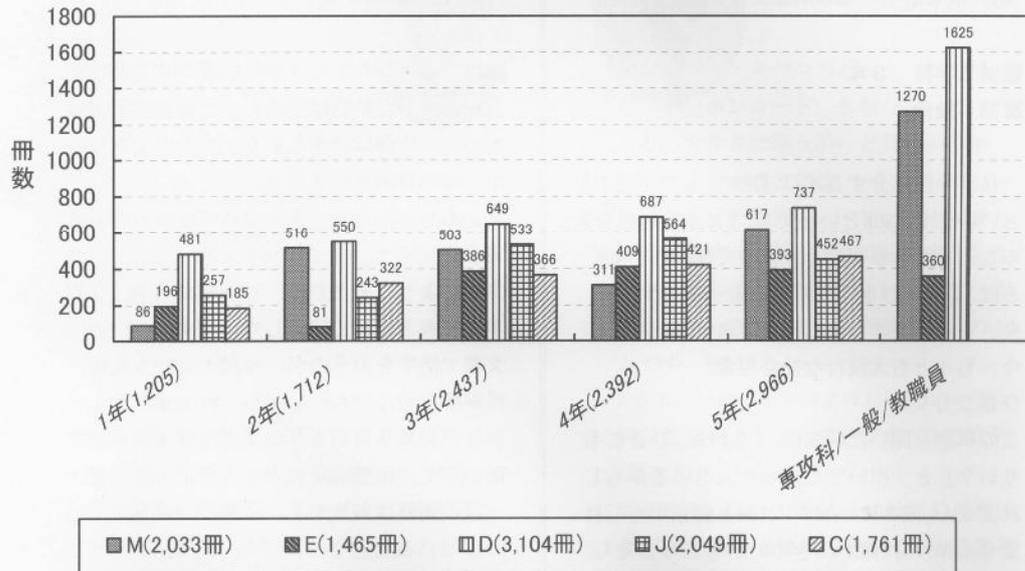
図書館蔵書の貸出数

平成17年12月

図書館だより

第27号

平成16年度 クラス別貸出冊数 総計13,667冊



平成16年度 貸出冊数番付 (学年は平成17年度)

横綱	大関	関脇	関脇	小結	小結	前頭	前頭	前頭	前頭
4D	5D	3C	2D	3D	3C	3M	5D	4M	2J
122冊	121冊	105冊	105冊	99冊	98冊	96冊	94冊	94冊	90冊

平成17年度 図書館運営部会および学生図書委員会

図書館運営部会

図書館長 田村 和士(基礎)

図書館運営部会委員

- 武長 玄次郎 (人文)
- 鈴木 道治 (基礎)
- 林田 和宏 (機械)
- 吉崎 静男 (電気電子)
- 坂元 周作 (電子制御)
- 米村 恵一 (情報)
- 高石 斌夫 (環境都市)

学生図書委員会

図書委員長 [] (4J)

クラス委員	機 械	電気電子	電子制御	情 報	環境都市
1年					
2年					
3年					
4年					
5年					

(出典 図書館だより第27号15頁)

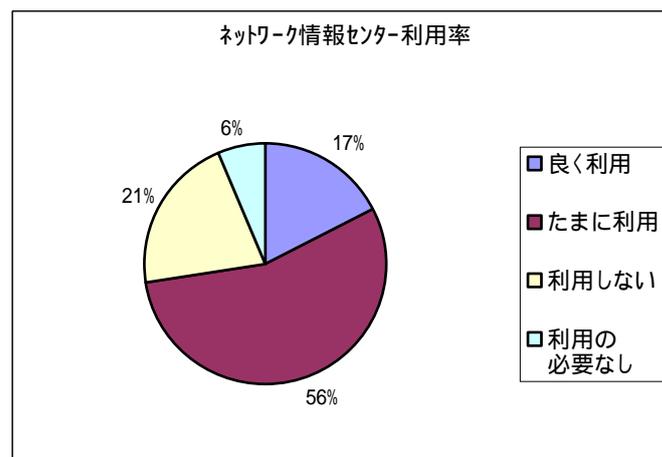
資料 8 - 1 - - 16

体育施設の概要

名 称	面積 (m ²)	利用条件	設 備 等
グラウンド	30,000	授業, 学校行事, 課外活動, 学友会 活動の優先順で 使用することが できる。これ以外 については, 学生課 学生係に使用願 を出して使用で きる。	400mトラック(トラック内はサッカー・ラグビー場), 野球場, ホッケー場, 屋外便所, 体育器具庫
第1体育館	1,152		舞台設備, トレーニング設備, バスケットコート, 卓球台, シャワー
第2体育館	879		バレーボールコート, バスケットボールコート
武道場	311		柔道, 剣道, 空手場
テニスコート (4面)	2,300		テニスコート
プール	258		25m屋外プール, シャワー, 更衣室等

資料 8 - 1 - - 17

ネットワーク情報センター利用



(出典 本校認証評価の HP

<http://www.inc.kisarazu.ac.jp/~nfukuchi/ninshou/index.htm>)

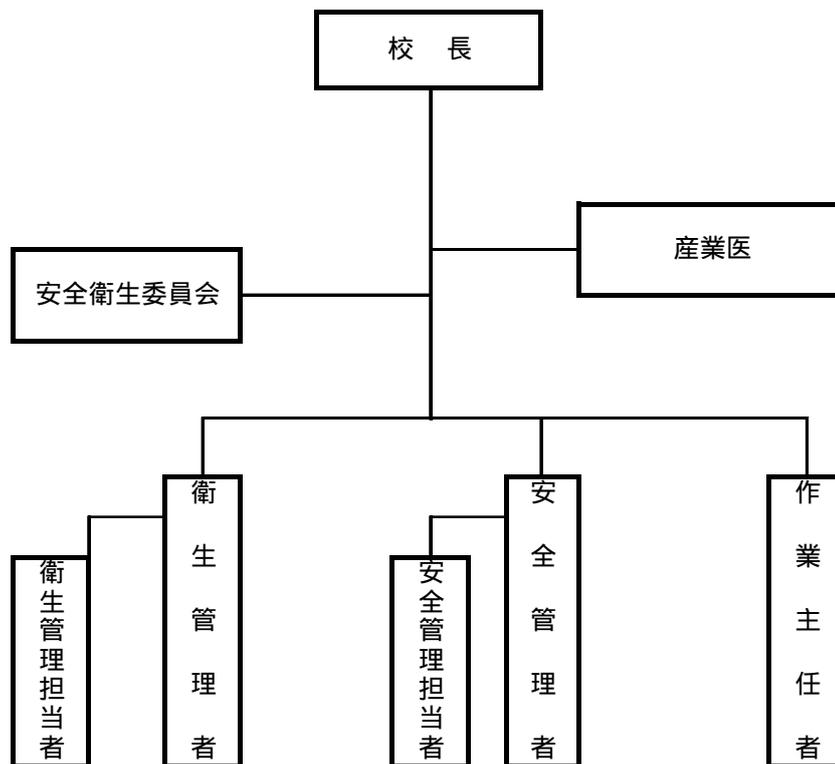
オープンラボの概要

名称	面積	使用 人数	一人当	場 所	設 備 等
	(m ²)		面積(m ²)		
オープンラボA	64	10	6.4	一般研究棟 2F	パソコン, 実験台, LAN, 吊り下げ式コンセント
オープンラボB	64	15	4.3	第1研究棟 2F	パソコン, ドラフトチャンパー, 流し付実験台, デジタル実験装置, LAN
オープンラボC	45	6	7.5	第1研究棟 3F	パソコン, 分光器, 半導体レーザー, デシケータ, LAN
オープンラボD	68	11	6.2	第2研究棟 2F	パソコン, 磁気位置計測センサ, LAN ロボットアーム, 直流安定化電源
オープンラボE	68	20	3.4	第2研究棟 2F	パソコン, サーバ, 作業机, LAN

本校安全衛生管理体制

別表第1

木更津工業高等専門学校安全衛生管理体制組織



(出典 2005年度安全衛生委員会資料)

本校安全衛生委員

平成 17 年度木更津工業高等専門学校安全衛生委員会委員

校長（代理）	河上 恭雄	校長（高遠 節夫 学生主
事）		
産業医	大日方惟忠	大日方医院長
衛生管理者	篠村 朋樹	人文学系助教授
安全管理者	三上 隆美	会計課長
校長が指名した者		
機械工学科	石出 忠輝	教授
電気電子工学科	熊谷 勝彦	教授
電子制御工学科	橘川 五郎	教授
情報工学科	丸山真佐夫	助教授
環境都市工学科	高石 斌夫	助手
基礎学系	鎌田 勝	教授
庶務課	原 稔継	庶務課長
会計課	遠藤 賛	施設係員
技術教育支援センター	水野 文雄	技術専門職員

委員会構成人数 13名

校長（総括安全衛生管理者）

使用者側で指名する者 6名

過半数代表者の推薦を受けて指名する者 6名（太字ゴシックの者）

（出典 2005 年度安全衛生委員会資料）

安全衛生に係る調査や改善の検討

平成 17 年 12 月 22 日
安全衛生委員会

家具・機器類の転倒危険調査結果について

安全衛生委員会は、平成 17 年 6 月から 9 月にかけて、校内の家具・実験機器等の地震による転倒の危険性を調査した。本報告では、その調査結果と今後必要と考える対策について述べる。

(1) 転倒危険調査の結果

表 1 に校内全体の家具・実験機器等の転倒危険度についての調査結果を示す。なお本表における A～Z の分類は、調査記入者の判断に基づく。また表 2 に、寸法に基づく簡易的な転倒危険度判定式（東京消防庁家具類の転倒・落下防止対策推進委員会の「転倒防止器具の取付け方法や安全な家具の置き方に関する指導指針」による）による判定結果を示す。

今回の調査から、校内にある約 1400 の家具・機器類のうち、転倒防止の対策済み（または不要）であるもの（表 1 の A, Y）は 100 程度しかないことが明らかになった。

表 1：転倒危険調査結果

分類	状況	数
A	固定済み	50
B	固定済みだが物が落ちる危険あり	81
C	簡易な方法で固定可能	589
D	固定に技術が必要	574
Y	固定の必要がない	42
Z	その他	20
	(計)	1356

表 2：判定式による転倒危険度

転倒危険性の判定結果	数
転倒しやすい	918
転倒しにくい	252
不明（寸法の記入がないもの）	384

(2) 今後の対策

首都圏における震度 6 以上の規模の地震は、いずれ必ず発生する災害であるといわれる。そして現状では、地震発生時には本校の家具類の多くが転倒すると予想される。したがって、教職員・学生の安全確保のためには、転倒防止の対策は必須である。安全衛生委員会は、次の措置が必要であると考ええる。

- (a) 期限を決めて転倒防止の対策を進めること
- (b) 必要に応じてより本格的な転倒危険性に関する調査を行うこと
- (c) そのための予算措置が必要となること
- (d) 家具・機器類を新規に購入又は設置する際には、転倒防止に十分配慮すること

(出典 2005 年度安全衛生委員会資料)

資料 8 - 1 - - 22

木更津工業高等専門学校教職員安全衛生管理規則

平成 16 年 4 月 1 日

規 則 第 14 号

(目的)

第 1 条 この規則は、木更津工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員の安全衛生に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

2 この規則に定めのある場合のほか、本校における教職員の安全衛生については、労働安全衛生法（昭和 47 年法律第 57 号。以下「安衛法」という。）及びその他関係法令の定めるところによる。

(校長の責務)

第 2 条 校長は、法令及びこの規則の定めるところに従い、教職員の健康の保持増進及び安全の確保に必要な措置を講じなければならない。

(教職員の責務)

第 3 条 教職員は、校長その他の関係者が講ずる健康の保持増進及び安全の確保のための措置に従わなければならない。

(安全衛生管理体制)

第 4 条 校長は、本校における安全衛生管理の業務を統括管理する。

2 本校における安全衛生管理体制は、別表第 1 のとおりとする。

(衛生管理者)

第 5 条 校長は、安衛法第 12 条及び機構安全管理規則第 5 条の定めるところにより、衛生管理者を置く。

2 衛生管理者は、法令に定める必要な資格を有する教職員のうちから校長が選任する。

3 衛生管理者は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。

(1) 労働者の健康障害を防止するための措置に関すること。

(2) 労働者の衛生のための教育に関すること。

(3) 健康診断の実施その他健康の保持増進のための措置に関すること。

(4) 労働災害の原因の調査及び再発防止対策に関すること。

(5) 労働災害を防止するため必要な業務で労働安全衛生規則（昭和 47 年労働省令第 32 号。以下「安衛則」という。）で定めるもの。

.....以下省略

(出典 木更津工業高等専門学校教職員安全衛生管理規則)

実験実習安全必携

安全必携目次

第Ⅰ部 共通

第1章 安全一般心得	1
第2章 学生実験の心得	2
第3章 救護と衛生	3
第1節 救急処置一般	3
第2節 創傷	7
第3節 熱傷	7
第4節 ガス中毒	9
第5節 感電	10
第6節 その他参考事項	10
6-1 熱中症	10
6-2 鼻血	12
6-3 目の外傷	12
6-4 過換気（呼吸）症候群	13
6-5 凍傷	14
第4章 火災時の対応	15
第5章 地震時の対応	16
第6章 爆発時の対応	16
第7章 薬品漏洩時の対応	17

第Ⅱ部 作業別安全心得

第1章 電気取扱い	18
第2章 運搬作業	19
第3章 高所作業	19
第4章 回転体取扱い作業	20
第5章 高熱作業	21
第6章 一般化学実験	22
第7章 危険物取扱い作業	22
第8章 有害物質の取扱い	23
第9章 バイオハザードの防止	24
第10章 廃棄物・廃水処理心得	24
第11章 高圧ガス取扱い作業	25
第12章 高圧電気取扱い作業	26
第13章 X線取扱い作業	27
第14章 レーザー取扱い作業	27
第15章 グライNDER作業	27
第16章 溶接・ガス切断作業	28
第17章 容器・ピット内作業	29

(出典 実験実習安全必携目次)

(分析結果とその根拠理由)

総合教育棟をはじめ多数の実験室，演習室等が学習のために整備され，活用されているとともに，安全衛生に関しても十分な配慮がなされている。

基準 8 - 1 - : 教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

教育内容・方法の面からの情報ネットワークによるニーズの把握や情報セキュリティの構築などに関しては，ネットワーク情報センター運営部会により現状の把握と今後の改善がなされている(資料 8 - 1 - - 1 ~ 2)。ネットワーク情報センターには専門職員が配置され(資料 8 - 1 - - 3)，セキュリティポリシーにのっとり高度な安全性を確保するための体制を整備している(資料 8 - 1 - - 4)。

本校のシステムは Gigabit・Ethernet による情報の高速伝送が可能であり，キャンパスネットワークを管理するために 10 台のワークステーションを設置し，電子メール，ホームページサイト，インターネット等の機能を分担している。教員の研究及び学生実験実習，事務業務のための利用の他，Gigabit・Ethernet・Switch 及びバックボーンを利用したデータ伝送の利用研究，学内情報の共有化の研究，インターネットの利用による国内外情報の収集・交換の研究等にも利用可能である。また本システムは高速でマルチメディアに対応し，システムの信頼性・拡張性に優れた校内 LAN システムである(資料 8 - 1 - - 5)。システムの詳細はネットワーク情報センターホームページに掲載されている(資料 8 - 1 - - 6)。

学生には年度初めにネットワーク情報センター利用の手引(資料 8 - 1 - - 7)及びセキュリティポリシーに基づいて作成したネチケット(情報倫理)(資料 8 - 1 - - 8)を配付し，センターの利用方法やネットワークのモラルについての講習を行っている。学生にも多く利用されている(資料 8 - 1 - - 17)。

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会規程

平成 13 年 4 月 1 日
規 則 第 14 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、木更津工業高等専門学校総合情報メディア委員会規則（平成13年 4 月 1 日規則第 8 号）第 6 条第 1 項第 2 号の規定に基づき、**ネットワーク情報センター運営部会**（以下「運営部会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 運営部会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) ネットワーク情報センター等の管理及び運営に関すること。
- (2) その他ネットワーク情報センターに関すること。

(組織)

第 3 条 運営部会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 学科・学系から選出された教員若干名
- (4) 事務部長
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 運営部会の委員は、校長が委嘱する。

3 第 1 項第 3 号及び第 5 号に掲げる委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(部会長)

第 4 条 運営部会に部会長を置き、センター長をもって充てる。

2 部会長は、運営部会を招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第 5 条 運営部会が必要と認めた場合は、委員以外の者を運営部会に出席させその意見を聴取することができる。

(事務)

第 6 条 運営部会に関する事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規程に定めるものの外、運営部会に関し必要な事項は、運営部会の議を経て校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 14 年 7 月 1 日から施行する。

(出典 木更津高専規定集 2201 頁)

資料 8 - 1 - - 2

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会議事録の例

ネットワーク情報センター運営部会議事要旨

- 日 時 平成18年2月14日(火) 15:15~15:50
場 所 ネットワークセンター演習室
出席者 小林センター長、岩崎副センター長、白井副センター長、石出、斉藤、五島の各委員、
欠席者 福地、浅野、石川
- 議 事
- (1) 本年度の活動
小林センター長から平成17年度に行った演習室の機器更新、第25回高等専門学校情報処理教育研究発表会参加及び定期保守等の活動について報告があった。
 - (2) その他の報告
空調機更新及びブレーカーの断等について報告があった。
 - (3) 来年度予算について
特別教室の机、椅子を入学式前までに更新したい希望の説明があり審議の結果了承された。
 - (4) その他
spam 対策について一部の教官から逆引きの要望があったことが報告された。また、事務局よりメールサーバが古くなり更新することの報告があり、その際各学科への周知徹底をお願いしたいとの要望あった。

(出典 2005 年度木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営部会議事録抜粋)

資料 8 - 1 - - 3

木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター機器室利用基準

平成 5 年 4 月 1 日

細 則 第 3 号

(趣旨)

- 1 木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター運営規程第 5 条に基づき、木更津工業高等専門学校ネットワーク情報センター(以下「センター」という。)の機器室の利用に関し必要な事項を定める。

(利用者の資格)

- 2 機器室を利用することができる者は、次の各号に該当するものとする。
 - (1) センター委員及びセンター職員
 - (2) その他、センター長が認めたる者

附 則

この基準は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 木更津高専規定集 2206 頁)

木更津工業高等専門学校情報セキュリティポリシー

部外秘

木更津工業高等専門学校情報セキュリティポリシー

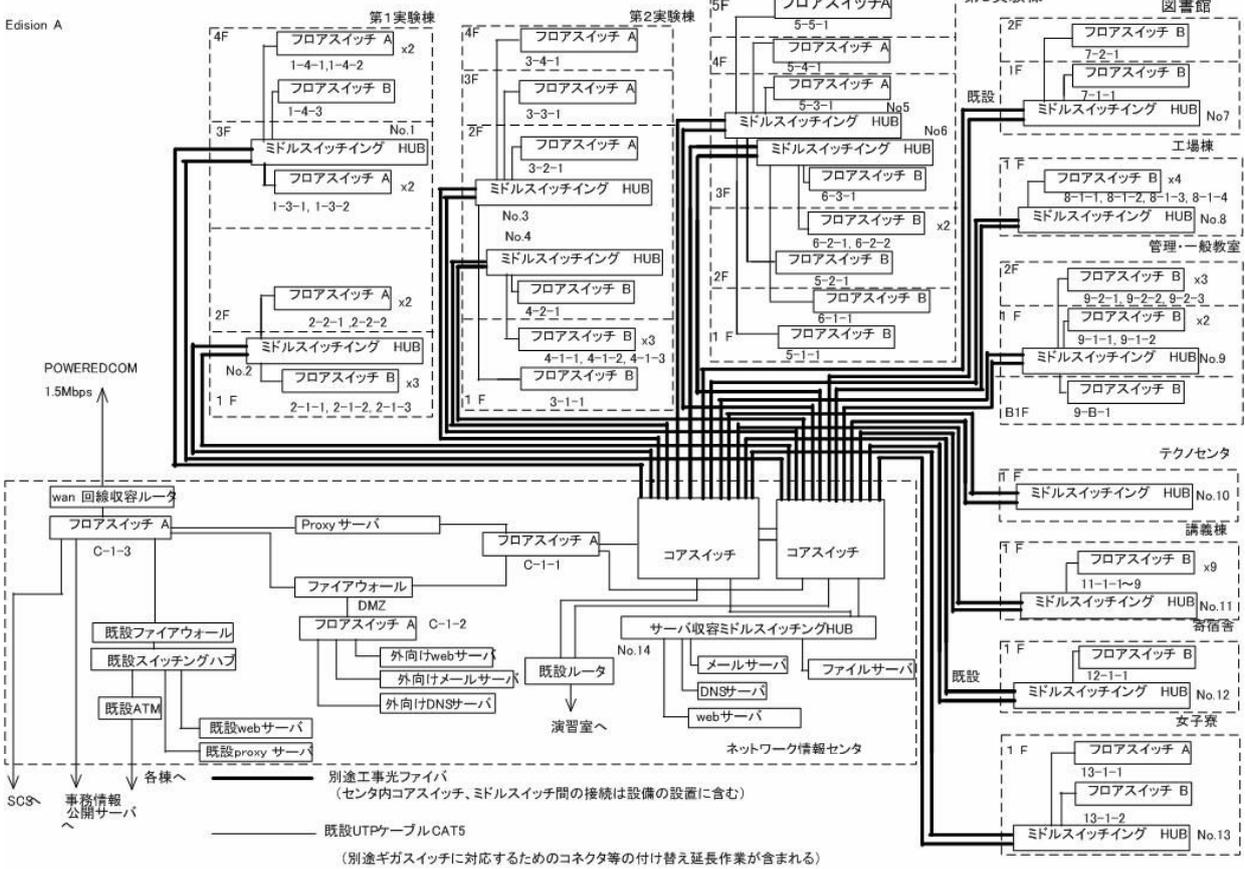
平成 1 5 年 4 月 1 日

総合情報メディア委員会

(出典 木更津工業高等専門学校情報セキュリティポリシー 部外秘のため表紙のみ掲載)

本校高速キャンパス情報ネットワークシステムの物理構成

木更津工業高等専門学校高速キャンパス情報ネットワークシステム(物理構成)



(出典 ネットワーク情報センターホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/~inc/>)

ネットワーク情報センターホームページ

Information Network Center

はじめに

本校では、平成 2 年に校内 LAN(10BASE-5)が完成し、教育用電算機(MV10000)を中心に教育・研究に利用してきた。さらに、外部の JUNET, TRAIN にも参加し、電子メール等のサービスもおこなってきた。平成 7 年からは当時の最新システムである ATM ネットワークを構築し、運用を行ってきた。平成 13 年からは TT-NET (現 Powered Com) を利用し、1.5Mbit/s でインターネットとの接続を開始した。しかし、ここ数年の間に外部ネットワークの情勢も大きく変化し、また、学内の設備も旧式になりつつあった。ルータ、サーバなどを細々とリニューアルしてきたが、ATM 機器の故障も目立ち始めシステム全体の改修が必要となった。「校内 LAN 整備」をお願いしていたところ、予算を得ることが出来た。早速調査と仕様作りを始め、マルチメディアに耐えられる高速性、セキュリティの強固でありながら、利便性に富んだシステムであることに重点を置いた仕様になった。かくして平成 14 年 4 月から Cisco 社製 Gigabit Ethernet の技術を導入した基幹ネットワークが完成した。

ネットワークの設計ポリシー（仕様書から抜粋）

近年、画像配信、ネットワーク電話など、大容量かつ高速なデータ伝送を必要とするサービスが一般化しつつある。本校でもマルチメディアに対応したシステムの必要性が叫ばれているが、これを現実のものとするには、各実験棟、一般・管理棟、実習工場、図書館、寮間を 1Gbps 以上の伝送速度を持つ基幹と各研究室、教官室、教室、事務室等を 100Mbps で結ぶ支線とが必要である。このためのネットワーク設備として、現在 1Gbps で伝送する高速大容量のギガビットイーサが各方面で提案され注目を集めているが、本校においてもこの導入が基本であり、本システム概要の全てである。セキュリティの面では、現在のプロキシに全面的に頼ったファイアウォールではなく、ファイアウォール専門のシステムを導入し、外部からの進入に強く、外部への接続がしやすいシステムにする必要がある。そこで、各棟の既存の LAN システムを有効に活用しつつ、各棟間のネットワークを高速かつ大容量とし、最新の高度なセキュリティと、インターネットと LAN 間のスムーズな接続を可能とするシステムを構築し、学内外の情報を最大限に活用することを目的とした将来を見据えた拡張性に富んだネットワークを構築する。

木更津工業高等専門学校高速キャンパス情報ネットワークシステム

システムの概要

最近の LAN システムの発展には目を見張るものがあり、Ethernet・FDDI・ATM と高速かつ大容量である LAN システムが日に日に進歩してきた。現在は、Gigabit Ethernet が主流となりつつある。また、LAN を流れる情報についても、データ・音声・画像と多種多様になってきている。平成 13 年度まで、基幹ネットワークが 155Mbit/s の ATM、末端は 10Mbit/s の 10Base-T であった。現在、本校では動画システムを用いた研究も行われており、ATM を基本とした技術では、所望の特性を満たすことは難しくなってきた。そこで、各棟の既存の LAN システムを有効に活用しつつ、各棟間のネットワークを高速かつ大容量とし、インターネットとの LAN 間接続を行い、学内外の情報を最大限に活用することを目的とし、将来を見据えた拡張性に富んだシステムを構築した。

システムの利用目的およびその形態

システムの利用は卒業研究を含む教官研究および 学生実験実習などの各学科・学系内利用、事務業務の利用のほか、下記の研究テーマで学内外での共同研究にも活用可能である。

1. Gigabit Ethernet Swich およびバックボーンを利用したデータ伝送の利用研究
2. 学内情報の共有化の研究
3. インターネットの利用による国内外情報の収集・交換の研究
4. 教官・学生間のコミュニケーション活性化の研究

システムの主な機能および特質

高速でマルチメディアに対応し、システムの信頼性・拡張性に優れた校内 LAN システムである。このシステムの構成を図 1 示す。幹線系として、ネットワーク情報センタに Gigabit Ethernet コアスイッチを設置し、スター型ネットワークにより、集中管理を行う。コアスイッチから各棟のスイッチングハブ間は、光ファイバーケーブルを敷設し、1 Gbps の高速通信を行う。また、システムの二重化を行い、スイッチの停止、ケーブルの切断などに対処しつつ、負荷分散を行っている。支線系として、スイッチングハブの各ポートは VLAN の設定を行い、各棟に散在しているグループを LAN 上は 1 つにまとめることができ、そのグループは現在 20 グループほどになっている。学外との接続については PoweredCom を経由してインターネットに接続する。本システムは次の機器で構成され、次のような機能を有する。

資料 8 - 1 - - 6 (2 / 2)

1. ネットワーク機器

本システムの中核をなす ATM 交換機および光ファイバーケーブル、マルチプロトコル・ルーティング・スイッチングハブ等から構成され学内外の大容量かつ高速な情報交換を実現する。

コアスイッチ	Cisco Catalyst 6500series	2 台
ミドルスイッチングハブ	Cisco Catalyst 3500XL Series	14 台
フロアスイッチ	Cisco Catalyst 2900XL Series	54 台
ルータ	Cisco 3620	1 台

2. ネットワーク周辺機器

LAN に分散配置され、インターネット関連のサーバおよび情報端末から構成される。

各サービス用サーバ	Compaq ProLiant ML350	9 台
ファイルサーバ	Compaq Tasksmart N2400	1 台

教育用電算機

平成 17 年 4 月より、演習室電算機 50 台に加え、特別教室（旧 LL 教室）49 台も新システムに更新された。ネットワーク情報センターは、完全にセンター内演習室及び特別教室の 2 演習室体制となった。新たに Microsoft アクティブディレクトリ環境を用いたシステムが導入され、UNIX 環境のため、LDAP 及び Kerberos 認証を導入し、センター関係のシステムの認証方法の統一化を図っている。今回導入されたシステムは、Dell 社製コンピュータを導入し、クライアント機器は高速な CPU と大容量のメモリを備え、Microsoft WindowsXP を基本的な OS として動作している。サーバ類は、2way RAID システムを基本として、高速化・安定化を図っている。

サーバ及び管理用クライアント機器

Dell 社	PowerEdge 1750	4 台
	PowerEdge 775N	1 台
	PowerVault 775N	1 台
	PowerVault 220S	1 台
	OptiPlex GX 270	6 台

センター内演習室

センター内演習室は、各学科の専門教育用システムとして利用しており、コンピュータ言語教育に重点を置いて設定されている。

クライアント機器		
Dell 社	OptiPlex GX 270	50 台

特別教室

特別教室は、英語科の授業を中心に、主に一般教育で利用されている。

クライアント機器		
Dell 社	OptiPlex GX 270	49 台

(出典 ネットワーク情報センターホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/~inc/>)

ネットワーク情報センター利用の手引

木更津工業高等専門学校 ネットワーク情報センター 利用の手引き

平成 17 年 4 月

ネットワーク情報センター

1. システムの特徴

- 1) 演習室のクライアント PC 上で Windows 環境の利用が可能である。
- 2) Windows サーバーには Windows 2003 Server を採用し、Windows 環境でファイルの共有ができる。(Windows ファイルサーバー file にある各ホームディレクトリを Windows 上で「マイ ドキュメント」フォルダ (H ドライブ) としてマウントしてある。
- 3) クライアント PC の OS には Windows XP Pro を採用し、ユーザーがログオンする毎に常に同じ環境が利用できると同時に、メーカーの設定ファイルや Web ブラウザのブックマーク等は file の各ユーザーのホームディレクトリに保存できる。
- 4) Windows サーバーでパスワード管理を行うことで、同一パスワードで各クライアント PC にログオンや各サービス (メール等)、特別教室のパソコンを利用できる。
- 5) クライアント PC の電源管理をリモート操作で自動的に行うようにした。原則として平日 8:30 に電源が入り 17:00 に電源が切れる。また午後授業予鈴時(13:05)にリポートされる。また、システム保護のため、手動での電源操作は厳禁とする。
- 6) プロジェクタを用いて①教師用 PC 画面(DATA1)、②書画カメラ(VIDEO1)、③VTR (VIDEO2)の画像データをスクリーン上に投影できる。
- 7) ネットワークプリンタで Windows 環境から印字が可能。プリント用紙は各自で用意する。
- 8) 既存のネットワークとはルータを介して接続し学内 LAN の通信負荷を軽減するとともに、演習室内は 100Mbps のデータ通信が可能である。

2. クライアント PC の利用方法

1) ログオン

通常のログオン手続き

Ctrl+Alt+Del を押してログオン画面を出し、ユーザー名とパスワードを入力。

ログオン先は INC。

(初めてログオンしたときにはパスワードの変更を要求される)

(出典 ネットワーク情報センター利用の手引)

ネチケット (情報倫理)

ネチケット(情報倫理)

ネットワーク情報センター
小林 暁

ネットワークモラルって？

- ネットワークを使う上での常識、ルール
- 人と話をするときも話し方がある
- 電話をするときもかけ方がある
- 手紙を書くときも書き方がある

インターネットの一般ルール

- リスク、社会的責任、法的責任がある
- 最悪の場合、逮捕もあり得る
- 相手の立場に配慮しよう
- 相手は自分でない。小さな誤解がけんかのもと

情報システムポリシー(ルール)

- 校内情報システムは、学校のきわめて重要な保有財産
- 学生は学校の定める規則を遵守
- コンピュータ資源の保護

情報を発信・公開する際の注意

- 内容が公序良俗に反しないこと
- 他者の権利を侵害しない
- 学校の信用・品位を傷つけない

実際はどういうこと？

- 性的な画像や文章
- 差別的なもの
- 虚偽のもの
- 他者の名誉・信用を傷つけるおそれのあるもの
- 他者のプライバシーを侵害するおそれのあるもの
- 学校の信用・品位を傷つけるおそれのあるもの

(出典 ネットチケット (情報倫理))

(分析結果とその根拠理由)

ネットワーク情報センターが適切に整備され、全学生及び職員が学内の多数の端末機からいつでも利用できる。ネットワーク情報センター運営部会により、現状の把握と今後の改善が随時なされている。センターには専門の職員が配置され、セキュリティポリシーにのっとり高度な安全性を確保するための体制を整備している。以上、情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されている。

基準 8 - 2 - : 図書、学術雑誌、視聴覚室資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館では、蔵書が各々分野別に整理され利用しやすい配置となっている。シラバス関連の資料のコーナー、閲覧コーナー、新聞コーナー、書庫、ビデオ室、ゼミ室、語学自習室、パソコンコーナーなどがある(資料 8 - 2 - - 1)。ビデオ室にはテレビデオ 5 台、DVD プレーヤー、LD プレーヤー、オーディオを設置している。学生、教職員はもとより 2001 年度より学外者にも開放している。

蔵書及び視聴覚資料も十分に取り揃えている(資料 8 - 2 - - 2)。図書館の端末のみならず学内の端末から蔵書の検索ができる。

図書購入の希望は、図書館運営部会により各学科・学系教員からの要望をアンケート調査して決定している他、リクエスト箱を用意して学生の要望も汲み上げている(資料 8 - 2 - - 3)。新着図書の案内は図書館に張り出されるだけでなくホームページでも閲覧可能である(資料 8 - 2 - - 4)。

利用できる電子ジャーナルとしては ACS, AIP, APS, Science Direct, MathsSciNet, JDream 等があり、学内の端末から利用できる他、文献複写依頼・蔵書コピー等のサービスも充実している。

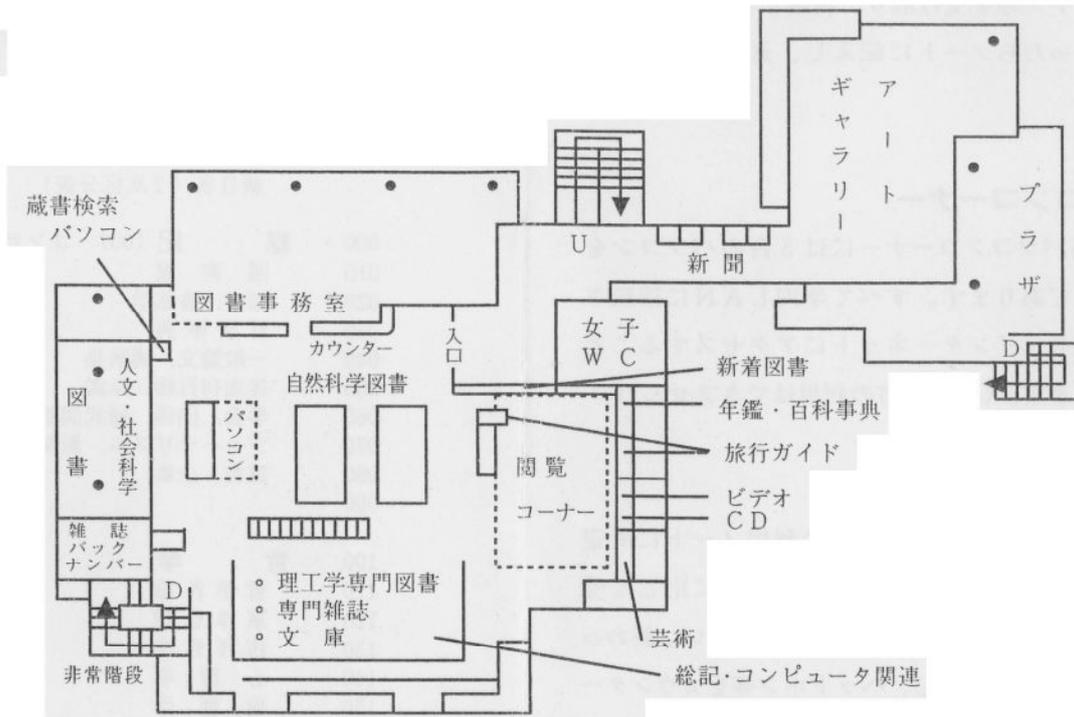
図書館の利用促進のため、平日は 20:00 まで夜間も開館し、土曜日も 12:00 ~ 17:00 まで開館している(長期休業期間中の平日は 09:00 ~ 17:00)。

年に 1 回校内読書感想文・作文コンクールを行い、学生の読書の動機付けと啓発を行っている(資料 8 - 2 - - 5)。

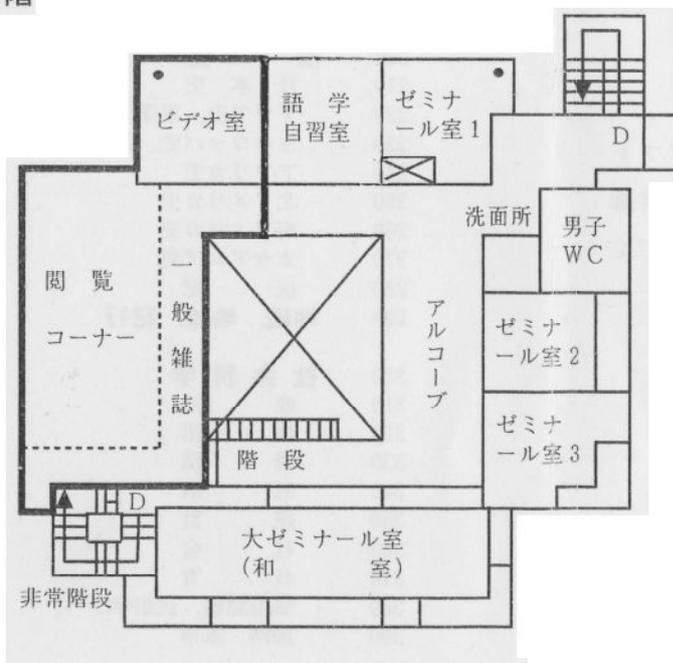
図書館の利用方法、注意事項等は図書館利用のしおりに詳しく記載されており、図書館カウンターで常時配付されている(資料 8 - 2 - - 6)。

図書館見取図

2階



3階



(出典 図書館利用のしおり)

資料 8 - 2 - - 2

図書館資料数の概要

蔵書数

分類・区分	和書	洋書	合計
総記	5,962	571	6,533
哲学	3,268	411	3,679
歴史	4,450	568	5,018
社会科学	4,540	567	5,107
自然科学	10,306	1,813	12,119
工学	17,033	1,046	18,079
産業	488	60	548
芸術	2,877	313	3,190
語学	3,728	1,167	4,895
文学	11,704	995	12,699
合計	64,356	7,511	71,867

受入れ雑誌数

和雑誌	洋雑誌	合計
268	9	277

視聴覚資料

ビデオテープ	308
CD	235
レーザーディスク	23
カセットテープ	291
レコード(LP)	81
CD-ROM	68
DVD	2

(出典 図書館ホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/lib/index.html>)

資料 8 - 2 - - 3

図書館リクエスト箱



新着図書のご案内

http://www.kisarazu.ac.jp/lib/new20051020063.html - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(I) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 検索 お気に入り

アドレス http://www.kisarazu.ac.jp/lib/new20051020063.html

Google Search 343 blocked Check AutoLink Options

Y! カスタマイズ 検索 ログイン アカカへ行こう! オークション My Yahoo! ファイナス Yahoo!メール ニュース 翻訳 スポーツ

新 着 図 書 2005.10~2006.3

	書 名 等	著 者 名
007.6	1週間で分かる基本情報技術者集中ゼミ 午前、午後編	福嶋 宏訓
913.6	センセイの聴	川上 弘美
913.6	魂萌え	桐野 夏生
913.6	震度0のp	横山 秀夫
913.6	川の深さは	福井 晴敏
913.6	涼宮ハルヒの陰謀	谷川 流
913.6	暗いところで待ち合わせ	乙一
915.6	涙そうそう	TBS涙そうそうプロジェクト
913.6	その時は彼によるしく	市川 拓司
913.6	トゥインクル☆スターシップ®	庄司 卓
494.5	明るいがん治療	植松 稔
"	がんの放射線治療	西尾 正道
019	「本を讀む子は必ず伸びる！」	樋口 裕一
913.6	馬廐の星	桂 望実
317	大学ランキング 2006年版	朝日新聞社
429.6	マンガでわかる「超ひも理論」	白石 拓
915.6	あなたの 涙そうそう	TBS「あなたの涙...」プロジェクト
410	直観でわかる数学	畑村 洋太郎
"	続 直観でわかる数学	"
412.2	フェルマーの大定理の短証明	山田 正治

ページが表示されました

スタート http://www.kisarazu... 認証評価基準8 認証評価基準8 - Micro... インターネット

(出典 図書館ホームページ <http://www.kisarazu.ac.jp/lib/index.html>)

読書感想文・作文コンクール

図書館だより

第 28 号

平成 18 年 2 月 8 日
木更津工業高等専門学校
図書館 (図書館運営部会)



第19回 読書感想文・作文コンクール入賞作品 特集号

目 次	
● 読書感想文・作文・小説 部門	
優良作：電気電子工学科 2 年	「心に夢のタマゴを持とう」 …… 1
電子制御工学科 1 年	「ガン回廊の朝」を読んで …… 2
環境都市工学科 1 年	いちずに一本道いちずに一ツ事 …… 3
入選作：情報工学科 1 年	「分数ができない大学生」 を読んで… 4
情報工学科 1 年	私の「生きる意味」 …… 5
● 短詩 部門	
優良作：電気電子工学科 3 年	けいたいでんわ …… 6
環境都市工学科 3 年	アイロン …… 6
入選作：機械工学科 1 年	実のなる木 …… 7
● 俳句・川柳・短歌 部門	
入選作：環境都市工学科 3 年	…… 7
● 編集後記	…… 7

(出典 図書館だより第 28 号)

図書館利用のしおり

図書館利用のしおり



開館時間

平日 9:00~20:00
土曜日 12:00~17:00

休館日

(日曜日・国民の祝日及び振替休日・年末年始・蔵書整理点検日等)
※臨時に閉館及び読書時間の変更を行う事があります



〒292-0041
千葉県木更津市清見台東 2-11-1
木更津工業高等専門学校
☎0438-30-4009
<http://www.kisarazu.ac.jp/>

【図書の検索】

1. 図書の分類

図書館では、日本十進分類法 (NDC) を用いて図書を分類し、分類番号順に配架してあります。この分類法をよく知っていると必要な図書を書架からより早く探し出せます。

図書分類法

目録表 (2 次区分表)

総記 (007 コンピュータ)

000 図書、雑誌

010 図書、雑誌学

020 百科事典

030 一般論文、講演集

040 送次刊行物、年鑑

050 学会、団体、研究調査機関

060 ジャーナリズム、新聞

070 乗書、全集

080

090

000 哲学各論

100 東洋思想

120 西洋哲学

130 心理学

140 倫理学

150 宗教

160 神学

170 仏教

180 道教

190 キリスト教

200 歴史

210 アジア史、東洋史

220 ヨーロッパ史、西洋史

230 アフリカ史

240 北アメリカ史

250 南アメリカ史

260 オセアニア史

270 伝記

280 地理、地誌、紀行

290

300 社会科学

310 政治

320 経済

330 法律

340 財政

350 統計学

360 社会学

370 教育学

380 風俗習慣

390 国防、軍事

400 自然科学

410 数学

420 物理学

○ビデオ以外の利用 (テレビ・CD)

カウンターの利用ノートに所定事項を記入し、ヘッドホン等を受け取り、利用してください。終わったらノートに記入し、返却してください。

◎パソコンコーナー

2階パソコンコーナーには5台のパソコンを配置してあります。すべて学内LANに接続されており、インターネットにアクセスすることもできます。(一般の方の利用はできません。)

「利用方法」

利用希望者はカウンターの利用ノートに所定事項を記入し、ヘッドホン等を用意に応じて受け取ったうえ、自由に利用してください。終わったらノートに記入し、ヘッドホン等をカウンターに返却してください。

・パソコンソフトの貸出はしていません。(各自持参してください)

◎図書購入希望

図書館で購入してほしい図書、ビデオソフト等がありましたら、カウンターにある「図書購入希望届」に記入し、カウンターに提出してください。

(出典 図書館利用のしおり)

(分析結果とその根拠理由)

図書，学術雑誌，視聴覚資料，パソコン，視聴覚機器が十分整備されている（受入雑誌 277 種，蔵書数 70000 冊以上）。年間 1 万冊以上の図書が貸し出され，多くの学生に利用されている。リクエスト箱の配置により，図書購入時に学生の要望も反映され，新着図書の周知も十分である。読書感想文・作文コンクールを毎年開催し，表彰制度を設けるなど，学生の読書に対する意欲の啓発も行っている。以上，図書，学術雑誌，視聴覚資料が系統的に整備され，有効に活用されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

総合教育棟をはじめ多数の実験室，演習室等が学習のために整備，活用されているとともに，安全衛生に関しても十分な配慮がなされている。ネットワーク情報センターが適切に整備されている。図書，学術雑誌，視聴覚資料，パソコン，視聴覚機器が十分整備され，多くの学生に利用されている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の学習教育目標を実現するために，総合教育棟をはじめ各研究棟等が適切に整備されている。各専門学科では実験室が多数整備され，実習教育のための実習工場が設置されるなど，充実した設備が全学校的な安全管理の下で有効に活用されている。

本校のネットワークの管理運営及び情報教育の中核としてネットワーク情報センターが設置されている。ネットワーク情報センターには専門職員が配置され，ネットワークの管理，コンピュータウィルス情報の周知，ファイアウォールの管理，メールサーバーの保守等とともに，情報処理の学習やプログラミング教育に有効に活用されている。ネットワーク情報センター運営部会により，情報教育の内容，教育方法の面からの情報ネットワークによるニーズの把握，情報セキュリティの構築に関する現状の把握と今後の改善等がなされている。学生に対するネットワーク・モラルの教育についても十分な配慮がなされている。

図書館は十分な面積を誇り，更に図書，学術雑誌，視聴覚資料，その他の教育上必要な資料等が十分整備され，学生や教職員に有効に活用されている。蔵書の検索は図書館の端末のみならず学内の端末からもできるようになっている。また読書感想文・作文コンクールを毎年開催し，学生の表彰制度を設けており，学生の読書に対する意欲の啓発も行っている。図書購入の希望は図書館運営部会により各学科・学系教員からの要望をアンケート調査して決定している他，リクエスト箱を用意し学生の要望も汲み上げている。新着図書の案内は図書館に張り出されるだけでなくホームページでも閲覧可能である。利用できる電子ジャーナルも豊富で，文献の複写依頼，蔵書コピー等のサービスも充実し，学生のみならず教職員の知識向上にも大いに役立っている。